

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	朝の時間を活用し、自ら課題を設定し、ドリルパークやスタディサプリなど個々の課題に応じた学習に取り組み時間を教育課程に位置付け、基礎基本の定着を図る。また、個人差が大きいことから、個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を検討していき、また、次年度の改善策としては、ICTの有効的な活用と授業のはじめに前時の振り返りをする時間を設けるなど、知識・技能の獲得につなげていく。そして、日々の生活の中でICT利用と家庭学習にも意識させるよう努め、さいたま市学習状況調査において市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、前年度調査を上まわるようにする。	
思考・判断・表現	来年度は、今年度以上に小集団でのグループ活動を単元の中に意図的に設定することで、多様な考えに触れる機会と、自分の考えを表現する機会を増やしていく。生徒自ら考えICT等を活用しながら学習活動を進め、さいたま市学習状況調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合の90%以上を目指す。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 授業に意図的に取り組むが、基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。 <指導上の課題> 生徒が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。	⇒ モジュール(朝数学)を設定し、基礎的な計算等、反復を通して基礎学力向上に取り組む。【朝の10分間25回実施】定期テスト前部活停止期間の朝のスタサプタイムやテスト勉強タイムを通し、自ら課題を設定し、個に応じた学習に取り組む。【スタサプタイム10分10回、朝のテスト勉強タイム10分10回】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・数学の「思考・判断・表現」の記述式問題の正答率が低い。 <指導上の課題> 生徒が自ら考え、自己表現する過程を授業中に時間を確保できていない。	⇒ 少人数等の活動の中に協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	現在、モジュール(朝数学)を実施(25回)し、基礎的な計算等を取り組み、また、定期テスト期間中(5回)に、朝のスタサプタイムや勉強タイムを通し、自ら課題を設定し学習に取り組む学習する習慣をつけ、自校テストの結果に伸びが見られた。授業では、振り返りの時間を確保することにより、R6年度さいたま市学習状況調査の国語の「話すこと・聞くこと」、数学の図形、社会の「歴史との対話」の項目では、同集団比較においてR5年度の結果を大きく上回った。
思考・判断・表現	A	校内研修を定期的に行い、オクリンプラスやPowerPoint等を使った協働的な学びにつなげることができた。R5年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、昨年度の結果より上昇した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、課題が見られた。特に「具体と抽象など情報と情報との関係」を捉える問題に課題がみられた。説明的な文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動が不十分であると考えられる。 数学の「関数」の領域において課題が見られた。一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表し、問題を処理することができていないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語の「書くこと」の領域において、特に「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章にする」の項目に課題が見られた。物語を創作し、感じたことや想像したことを書く活動が不十分であると考えられる。 数学の「数と式」の領域において課題が見られた。目的に応じて式の変形をしたり、その意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明する活動が不足していると考えられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「図形」、社会の「歴史との対話」、理科の「地球」を柱とする領域等で大きく改善が見られた。どの教科でも自校定期テストや小テストでは、概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。	
思考・判断・表現	どの教科においても、無回答率が低くなったことは、日々自ら課題を設定し、粘り強く学習に取り組める環境を整えた成果と考える。今後も、ICTを使った研修を重ね、授業では友達との意見を共有し、学び合いを取り入れた授業を展開できるようにしていく。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、異なる考え方をもちた人と協議して解決策を見出す活動に取り組む、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	9/20(金)現在、モジュール(朝数学)を実施(11/11回)し、基礎的な計算等を取り組み、また、2回の定期テスト期間中に、朝のスタサプタイムや勉強タイムを通し、学習する習慣をつけ、基礎学力向上に努めることができた。	変更なし
思考・判断・表現	A	少人数等の活動を通し、自分の考えを深め、協働的な授業実践を取り入れている。また、教科等の特質に応じた自己表現する過程を開発するための校内研修をICTサポーターを講師として2回(1学期,夏季休業中1回ずつ)実施した。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)